

平成 29 年度 事業報告書

社会福祉法人杉の子会

1 施設整備事業

29 年度は太陽の子保育園の隣に空き店舗が出来、保育園ホールとして賃貸契約しました。

- 多目的ホールの改修工事と太陽の子保育園門回りの改修工事
- セキュリティの観点から太陽の子、けま太陽の子両園に電子錠を設置しました。

【太陽の子保育園多目的ホール改修工事】

3/9「福祉環境設計舎ゆーず」と設計監理の契約を取り交わしました。

3/31 現場説明。

下記の通り入札を行いました。

入札日時：平成 29 年 4 月 14 日 午前 10 時～

場 所：杉の子保育園分室

入札立会人：福元理事長・吉澤理事・小阪理事

入札業者：リフォーム堀口、登工務店、小林工芸

リフォーム堀口（落札価格：18,300,000 円）に決定し、契約を交わしました。

5/31 引き渡し。

2 寄附金

杉の子友の会より	1,000,000 円
太陽の子友の会より	1,000,000 円
けま友の会より	1,000,000 円
ふりばより	10,000 円

3 会議

理事会	5 回（内、決議の省略 1 回）
評議員会	2 回（内、決議の省略 1 回）
監事会	1 回

4 その他

機関誌「ふたば」を 6 月、12 月 年 2 回発行しました。

2017年度 杉の子保育園事業報告

園児在籍数

年令/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0才児	5	6	7	8	8	8	9	9	9	9	9	9
1才児	15	15	15	15	15	14	15	15	15	15	15	15
2才児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
3才児	14	14	14	14	14	14	14	14	15	15	15	15
4才児	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
5才児	16	16	16	16	16	16	16	16	17	17	17	17
合計	81	81	82	84	83	83	84	84	86	86	86	86

1. 職員体制

【正規職員】 施設長1名 主任1名 副主任1名

保育士 11名(病欠1名)
栄養士 2名

【準正規】 保育士 2名

【パート】 保育士/ 7h: 1名(内1名休日担当) 6・5h: 1名

調理補助/ 3. 5h: 1名 用務/3h: 2名(朝、夕) 延長補助/4h: 1名 保育補助/7h: 1名 事務/6h: 1名

2. 開園時間

午前 7:00～午後19:30 (保育標準時間:7:00～18:00 保育短時間:8:30～16:30)

休日保育:午前8:30～17:30

3. 事業計画重要課題

☆「平和にむけてのとりくみ」

昨年度、年長組の様々な取り組みのなか「平和」を願うとりくみを保護者の方から指摘を受け、今年度は園全体で見直しを図り 年長だけのとりくみではなく乳児のクラスからどのように発信し、普遍的なものにしていくのか職員会議等で討議し、保育の柱にしてきました。戦争＝平和だけでなく 原発問題など様々な事に関心を持ち写真展をおこなったり、職員旅行で沖縄を訪ねたりと多方面で考える機会を設けていきました。

☆「食育」を考える

「食べることは生きること」としこの課題も保育の柱にしてきました。要保護観察児童が増え、家庭機能が期待できる環境下でないこともうけ 食品に触れること、行事食、クッキングなど食べることにに関してのとりくみを給食室を保育室と一緒に取り組んできました。

☆ 子ども子育て支援制度施行から3年を経過

保育制度改正から3年を過ぎようとしていくなか、世帯数の3分の2以上の家庭が新制度の中入所してきています。合せて「保育所保育指針」も平成30年～改定となることをうけて懇談会や学習会でその混乱や問題点を保護者としてより丁寧に共有できるように工夫をしてきました。けれども働き方の幅が広がり署名等の参加が低下してきている今後の取り組み方が課題になってきています。

☆ キャリアアップ制度導入

国の保育士の処遇改善施策の内 処遇改善Ⅱキャリアアップ制度を行いました。役職にあわせて国が指定する研修受講していくその流れに疑問を持ちながら、ベテラン・中堅職員が研修を受講しています。研修をうけてきた職員から国の流れのに関して嫌悪感や問題点を伺うことができました。今後、研修の量や中身を吟味しながらより良い物にしていけるように試行錯誤が必要です。

【保育実践】

- ☆ 年長交流 幼保小連携
公立・私立を飛び越えて交流を深めています。たくさんの園が参加する規模の大きい物から杭瀬保育所と合同でけん玉交流や3. 11の避難訓練をおこなったりと普段の保育での交流を小学校を交えながら行う事ができました。
- ☆ 「平和＝保育」を軸に繰り返し職員会議で討議を行ってきました。その討議を通して子どもの関わり方保護者への関わり方など通ずるものがあり職員全体の確信へつながる事ができました。
- ☆ 各関係機関との連携を大切にしてきました。虐待傾向のある家庭(主にネグレクト)など見えにくくなり、また、保護者自身が自覚なく子どもを公の場に出さない場合が増え、小田支所も閉所とともに保健師との連携・情報交換もこれまでよりも密に行ってきました。本当に保育が必要な家庭に届く事ができるよう模索してきました。

【子育て支援】

- ☆ 地域の開放日の時間を12時まで延長しゆっくり過ごす時間を設けてきました。
前日プール解放をしました参加人数が伸び悩み家庭での子育てニーズには十分ではありませんでしたが曜日や時間を見直したり、人形劇やワークショップなどイベントを通してアプローチをかけていきました。
- ☆ 年長クラスは個人懇談を例年に続き行いました。就学に向けて言葉や文字への興味、集団への姿勢など保護者との共通認識を一致させていきました。
- ☆ 親の就労形態で過度なストレスを抱えメンタルの病気を患う保護者のケースが増えています。
家に帰っても十分に食事ができない。気力がない。ワンオペ育児など一人で育児する環境があるためつきに1回夕食を食べる会を開催し、ご飯を食べながらゆっくりと夕方を過ごす時間も設けてきました。

4、健康 保健

毎月	身体測定
5月	小児科検診 手足口病 とびひ
6月	眼科検診 耳鼻科検診 歯科検診 歯科指導
7月	溶連菌感染症
8月	とびひ
9月	打撲受診 亜脱臼受診
10月	小児科検診 カウプ指数
11月	発達相談(2名) ロタウイルス ノロウイルス
12月	インフルエンザ 発達相談
1月	インフルエンザ
2月	インフルエンザ 川崎病
3月	亜脱臼受診

- ☆ 毎年計測するカウプ指数で全体的にやせ気味が多く、改めて食事に対する職員全体の意思統一を図りました。 バランスよく食べてほしい想いも踏まえつつカロリーを摂取することを大切にしながら給食の在り方を見直しました。

- ☆ とびひの治療に関して受診病院の判断によって完治ができず感染を広げてしまうことがありました。

5. 衛生・管理

7月 ゴキブリ駆除(本園、分園、分室)

6. 特別保育事業

一時保育延べ人数(休日保育を含む)

年令	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	4	6	5	6	5	7	6	6	5	4	5	5	64
1, 2	8	15	11	12	11	9	11	14	21	10	13	12	147
3, 4, 5		2		2	1	1	2	2	3	2	2	2	19
合計	12	23	14	20	17	17	19	22	29	16	20	19	228

平日の一時保育の要求が減少する一方で休日保育は平均して5～6名の利用がありました。
職員の確保が難しく 申し出ががあったとしても受入れができない日もありました。

延長保育延べ人数

年令	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	0	0	0	0	5	8	9	13	18	53
1, 2	118	120	128	122	107	137	111	90	69	94	124	117	1,337
3, 4, 5	206	190	191	138	144	178	169	174	141	196	163	230	2,120
合計	324	310	319	260	251	315	180	269	218	299	300	365	3,410

勤務先が遠方の方が増え お迎え時間が電車の遅延具合で左右されることが多々ありました。
特に18時前後のお迎えがごった返し、保護者と十分に伝達事項をお伝えすることができず、「園での様子がわからない」など
特に幼児の保護者から不安の声をいただくこともありました。十分な体制作りを常に意識はしていても
保育補助の職員と保育士とのバランスをもちながらのシフト作りには苦勞しました。

7. 障害児保育

難病指定のお子さんを受け入れ幼児クラスにて保育をおこなってきました。発作等を引き起こす食品などを
給食担当の職員を交えて毎月細かく確認し、徐々に集団生活に慣れていけるように配慮してきました。

また、発達に関する相談等も保護者の困り感に寄り添いながら発達相談につなげていきました。
相談後の対応は園全体で共有し、理解を深めてきました。

8. 地域の子育て支援事業

あそぼう会

毎週木曜日10:00～12:00までの開催にし、夏は毎日プール解放を行ってきました。
人形劇、カブラのワークショップ、移動動物園などたくさんのイベントを開催し、より多くの子ども達が参加しやすい
環境を整えてきました。 平日の通常開催ではなかなか参加人数が伸びず、近隣の公園を回って宣伝も
行いましたが、潮江のある緑遊公園では30組を超える親子が参加してくれましたが杉の子保育園は遠い
イメージがあるようです。 おでかけあそぼう会などを多く取り入れて顔をつないで
遠いと思っている壁を取っ払っていきたいと考えています。

かるがも教室

小田支所でおこなってきたかるがも教室ですが12月の小田支所移転にともない終了することになりました。
毎回、10組前後の親子が参加していますが、以前と違うのはやはり、参加を促しても家から出ようとしな
い親子がいる事が保健師から毎回相談としてあがってきます。
他者と繋がることに意味を見出さない親子へのアプローチの仕方が今後の課題です。

9. 実習生 ボランティアの受入れ

- 5月ー 頌栄短期大学 2年生(1名)
- 8月ー 関西保育専門学校 2年生(2名)
- 9月ー トライやる 小田中 2年生(3名)
- 1月ー 頌栄短期大学 2年生(2名)
- 2月ー 四天王寺大学3回生(1名) 関西保育専門学校2年生(1名)

関西国際大3年生 ボランティア 適宜受入れ

10. 避難訓練 健康教育 食育

- ① 南海トラフ地震を見通しての地域の避難訓練に参加。津波での避難場所になっている大阪富士工業へ年長児を中心として、尼崎たんぼぼ保育園 常光寺幼稚園とともに訓練をおこないました。
また、1. 17に行われた杭瀬小学校の避難訓練にも参加し地域の方とともに確認をしていく良い機会となりました。

「食べことは生きること」を保育の柱にし 職員会議など「食」をテーマにして会議を設けそれぞれの考え方を出し合い共通認識を構築していきました。
給食室からみえる子どもの姿と保育現場からみえる子どもの姿を立場の違いを認め合いながら多角的に「食」をとらえていく努力を行ってきました。

毎月、誕生会を同じように食育啓蒙活動をいれて行事食の成り立ちや野菜に関しての基礎知識身体をつくる栄養素など各クラスをまわって給食室と保育士が一緒になって行ってきました

11. 会議

各会議の運営責任者をはっきりとさせ 定例化し会議の中で意見交換を活発におこなえるようにしてきました。

リーダー会・・・各クラスリーダー出席 主に月案・週案討議/運営責任者(主任)
クラス会・・・クラス担当職員出席、子どもの見方 保育内容検討 / 運営責任者(クラスリーダー)
フロアー会議・・・連携動きの確認 / 運営責任者(副主任)
職員会議・・・全職員出席 保育方針等の討議/運営責任者(園長)

12. 研修

5園園内研修

保育所保育指針	10名
平和と保育	13名
わらべうた実践	10名
共謀罪を考える	12名

外部研修

考える集会	17名
保問研	2名
合研	6名
新医協	3名
法人園会研修	6名

キャリアアップ研修

マネージメント	1名
乳児実践	1名
幼児実践	1名
食育	1名
防災	1名
障害児保育	1名

平成30年度 4月～5月までの保育報告

入所児童数

0才児	5
1才児	14
2才児	13
3才児	15
4才児	14
5才児	17
合計	78名

主な行事

4月	入園・進級式 お花見遠足(幼児) クラス懇談会(0才児) お誕生会 身体測定
5月	杉の子育てる会総会 個人懇談(4才児・5才児) クラス懇談会(1才児・2才児・3才児) お誕生会 身体測定

インシデント・アクシデント

0才児・・・つかまり立ちからの転倒により歯茎を負傷 歯医者に受診する

2才児・・・午睡前 鼻水を拭きとろうと自分でティッシュを鼻に詰め取れなくなる
耳鼻科へ受診する かみつき1件

3才児・・・ひっかけ1件

病欠 4月・・・中耳炎1名 乳幼児突発発疹 1名 発熱2名
5月・・・溶連菌感染症 複数名

2017 (H29) 年度太陽の子保育園事業報告

園児在籍数

年齢月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児	6	6	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8
1歳児	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13
2歳児	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
3歳児	14	15	15	16	16	16	16	15	15	15	15	15
4歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	15	15	15	15
5歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
合計	72	73	74	75	75	76	76	75	76	76	76	76

1、職員体制

[正規職員] 施設長1名。主任1名。

保育士 9名 (阿尾保育士8月退職。岡田～休職) 栄養士 2名

[常勤的非常勤] 保育士 2名。

[パート] 保育士7H. 1名。 4, 5H. 2名 (午前1名。午後1名—延長保育対応)。

補助7H2名。 4, 5H1名。 朝3H1名。 調理補助4H1名

2、開園時間

午前7時～午後7時30分

保育標準時間7時～午後6時。

事業計画重要課題

- ・隣接のコンビニエンスストアが、営業中止になるという事が急ぎょ発生しそこを借り受け6月より多目的のホールとして活用していきました。保育園児の活用だけでなくあそぼう会の会場として、広く明るい事が口コミで広がりメンバーが増えました。

- ・要望のあった玄関のオートロック化工事に着工しました。

- ・給食室との連携を強めていくということでは、栄養士が子ども達の前で和えたり食べる様子も見に回る事が増え子ども達も給食室の先生を認識する機会が増えています。また、季節ごとにこいのぼりランチクリスマスだけでなくうんどうかいがんばれランチ。祝う会ランチや卒園おめでとうクッキーメダルなど提供されてきていて保育内容と連動した内容が増えてきています。また、幼児たちに午睡の前の時間を利用して食育の話をしてもらうようにもなりました。クッキング計画が出され給食室からのアドバイスももらい進められています。年長児は、米とぎ当番で調理室の先生に見守ってもらうことができます。保護者に対しては、絵で見られる献立表も作成してもらっているので子ども達も「今日は〇〇」と楽しみに見えています。延長保育児に対して検食展示は、写真で実施しています。1年間撮りためた写真は保育園見学者に回覧し内容を見てもらう事が出来ました。アレルギー対応についても丁寧に実施されています。

- ・子どもたちの最善の利益保障のための取り組みとしては、保育内容改善の署名だけでなく。国に対して、保育士の処遇改善を求める内容で反応も良く取り組みました。

<保育実践>

- ・各クラスで年カ리를立てそれに基づいて月案・週案をクラス会議を定期的に開催し計画、実践しています。
- ・3園で年齢別の保育内容交流ができ、同じ年齢の保育士で悩み交流を通じ保育の充実がされてきました。
- ・年長は海合宿で杉の子・食満と交流。オールあまっこの取り組みで公立保育所（園田）と園田地区の園和北・レオ・田能っ子・ポッポ・南清水・園和・けま太陽の子との交流ができました。
- ・小学校とは、園田南小に1. 17の取り組みの参加要請し参加させてもらったり、園田小学校の作品展の見学に行きました。また、小学校の支援級の先生との交流会に参加し次年度の子どもの様子について申し送りを実施しています。
- ・運動遊びについては、先生をお招きして、指導してもらうことで、子どもたちのやる気度UPにつながるとともに、縄跳びの取り入れ方の学習ができました。
- ・ワークショップの取り組みは、5歳児3回（2日続きが2回）・4歳児3回そして3歳児が1回取り組みました。3歳児は、3月の時期で期待も持てました。5歳児は、3回の内2回は1日で終わらずもう1日続きで取り組みをしたので、ゆっくりと作品制作が出来ました。ワークショップでナビゲーターの声かけから、子どもの表現した作品へのアドバイスの仕方を学ぶことができました。

<子育て支援>

{家庭との連携}

- ・新入園児については、0・1歳児クラスで家庭訪問を実施することで、子どもの家庭環境の理解が深められたことと保護者とゆっくり話ができて信頼感を深められたという報告がされています。
- その後のクラス懇談会は、映像も使って日々の姿を見てもらおう工夫や保育士は複数で参加して行くようにしました。年長クラスでは、2月に保護者の就学に向けての不安が感じられたので、個人懇談を実施しました。
- ・アンケートを取ると日々の保育については満足していただいているという声が多く寄せられました。要望としては行事で大変だけど親子が楽しめるので良いという見方もある中バザーの負担感が、出されていました。
- 「ちいさいなかま」は、子育てふれあい部で交流会を計画し和気あいあいと交流されています。
- ・保護者会の役員会の際保育をしています。（月1回6：15～7：30）また、父母の会・保育園・太陽の子会の責任者が集まり3者協議会を毎月1回実施し交流してきました。
 - ・バザー・太陽の子まつりの実行委員会を職員と保護者で実施。保護者の負担を軽減するための実行委員会のあり方の見直しを進めてきました。

3、健康・保健

毎月：身体測定。

健診など		感染発症した感染症
4月		
5月		嘔吐。インフルエンザ B・溶連菌
6	小児科健診。眼科健診（1名異常）耳鼻科健診（2名異常）。歯科健診（14名虫歯あり）。発達巡回相談	ウイルス性胃腸炎。嘔吐下痢。
7		アゼノウイルス。手足口病。
8		溶連菌感染症。ヘルパンギーナ
9	小児科健診（1名治療）。	尿路感染症。水痘。溶連菌。RS。とびひ
10	発達巡回相談	
11		嘔吐下痢。
12		溶連菌。
1		インフルエンザ。嘔吐。溶連菌。
2	発達巡回相談	インフルエンザ。溶連菌。結膜炎
3		川崎病。結膜炎。インフルエンザ

衛生・管理

園庭周辺一ぐるっぺ（週2回）6月：ムカデ駆除。屋上と周辺腐葉処理。8月：ゴキブリ駆除

4、特別保育事業

- ・一時預かりはのべ84名

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児					1	2	1	1	1	2	2	2
1・2歳児	14	18	16	15								
3歳以上	14	28	29	4	13	7	14	14	13	15	13	11
合計	28	46	45	19	0	9	15	15	14	17	15	13

・延長保育

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実利用者数	24	23	26	26	23	30	28	28	29	27	26	29
延べ利用者数	197	218	230	186	182	212	236	241	233	229	201	265
専任の保育士が1名いることで、子どもの状況を記録し担任とも意思統一するように心掛けている。												

・障害児保育

- ・古川先生の発達巡回相談を年3回実施してもらい診断を受け対応の仕方を指導いただいています。
- ・福元先生に太陽の子での障害児保育の取り組みについて職員に話してもらった機会を設けました。パート職員も参加してもらうため2日に分けて実施し共通認識の場を設けられ良かった。簡単に感想交流も出来たことも良かった。

・グランドパパママ

1回目を5月だとばたばたした中での行事となっていたため6月に実施。わらべうた遊びで交流しました。冬は、子どもたちの出し物を見てもらいました。2月3月の予定を早くに掲示したことで餅つきは、たくさん参加していただき子どもたちの出し物も見てもらいその後おもちつきを楽しみました。3月の大きくなったねの会では、祝う会で披露した子どもたちの姿を観ていただきました。

地域子ども・子育て支援事業

・お出かけあそぼう会

夕方・丸橋公園に出かけて小学生。幼児と遊ぶ機会をもってきました。今年度は、2回実施。掲示版やブログでお知らせしていますが、そこに来ている子どもたちと遊ぶようになっています。

・あそぼう会

木曜日を2歳以上としていたのを、0歳児でも受け入れ月・木両日開催にしていたけれど、多目的ホールになり参加者が多くなってきたので年齢を分けるのを検討中。月はじめに500円(ちいさいなかまを付けて)で次回からは0円対応が定着してきました。

子育て新聞を地域をひろげて1800枚配布しています。

実習生・ボランティアの受け入れ

- ・実習は、8月—園田学園2名。11月—園田学園1名。1月—頌栄1名。2月—大阪子ども専門学校1名。
- ・有償ボランティアは、あそぼう会木曜日に元公立保育園の先生が来てくださっています。

6、避難訓練・健康教育

防災・安全・健康委員会が計画的に年間計画に沿って実施しています。普通救命講習の技能の維持のため2年から3年間隔で講習を受けることになっており、計画的に講習参加や集団での受講会を実行してきました。6月の歯科健診時に衛生士さんに歯をだいじにすること。歯磨きの大事さなど子どもたちに話をしていただきました。その日の夜には、保護者向けにお話もしていただきました。

7、会議

職員会議は、全員出勤の土曜日は、土曜日実施。それ以外の月は、平日の13時30分～3時すぎまでで実施。会議資料は、前日提出がほぼ実施されるようになり、事前に資料を読んで会議参加することで、クラスの様子は、認知されやすくなってきています。非常勤職員が保育に回ることが多いので共通の場で意志統一できないので伝える工夫が課題です。リーダー会議は、職員会議では、論議できなかった内容や緊急の意思統一の際実施しました。クラス会議は、定例され進められてきています。

8、研修

5園研修

月	日		内容	参加者
4	14	火	共謀罪ってどんなもの	岡田・広瀬・加山・窪・福田・古本・上杉・砂川・小阪・下野・伊藤・阿部
5		火	わらべうた	岡田・加山・窪・福田・古本・上杉・砂川・下野・伊藤・阿部
7	6	水	保育所保育指針改定について	広瀬・加山・窪・福田・浦・古本・上杉・砂川・小阪・下野・伊藤・阿部・
11	16	火	沖縄で生まれ育つという事	広瀬・加山・福田・安藤・清水・浦・古本・上杉・砂川・小阪・下野・伊藤・阿部

・法人園会研修

月	日		内容	参加者
4	21	金	子どもの育ちと発達障害	岡田・窪・加山・大城・福田・古本・上杉・砂川・下野・伊藤・高林
6	13	火	3歳からの性	岡田・加山
6	28	水	運動遊び	上杉・福田
7	4	火	子どもと一緒に防災	伊藤・高林
7	24	月	幼児の生活技術の習得について	大城・窪

・保育セミナー（4～5月）

（岡田・広瀬・清水・加山・窪・安藤・福田・浦・古本・上杉・砂川・伊藤・阿部・高林・入江・小阪）

・兵庫の保育を考える集会（7月5日）

（岡田・広瀬・加山・窪・安藤・福田・浦・上杉・古本・砂川・下野・伊藤・阿部・小阪）

・全国合研（8月5～6日）—（岡田・砂川・阿部）

・給食セミナー（1月27・28日）—浦

（ 文責 小阪美恵子 ）

2017年度 けま太陽の子保育園事業報告

園児在籍数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	園児合計	一時保育
4月	6	11	12	13	12	11	65	13
5月	6	12	12	13	12	12	66	12
6月	6	12	12	13	12	12	66	15
7月	7	12	12	13	12	12	68	13
8月	7	12	12	13	12	12	68	15
9月	7	12	14	13	12	12	70	0
10月	7	12	14	13	12	11	69	1
11月	7	12	14	13	12	11	69	8
12月	7	12	14	13	12	11	69	11
1月	7	12	14	13	12	11	69	10
2月	7	12	14	13	12	11	69	2
3月	7	12	14	13	12	11	69	5
合計	81	143	158	156	144	136	817	105

【職員体制】

（正規職員）

施設長 1名、 主任 1名
 保育士 6名（堀口保育士、9月～育休復帰）
 調理師 1名

（常勤的非常勤職員） 保育士 4名

（パート） 保育士 7h 1名 5h 1名 5,5h 2名 延長 3h 1名
 保育補助 早朝5h 1名、 7h 1名 3h 1名
 調理師 1名（7月で退職） 調理補助 5h 1名

【開園時間】

午前7時～午後7時30分 午後6時～7時30分 延長保育

【保育】

育児休暇を取っていた保育士が、4月と6月に一人ずつ復帰し、保育の充実ができた。合計7人の職員が保育園に預けて働き続けている。子どもの病休等で体制の悪い日もあったが、クラス間で連携してきた。乳児・幼児の枠を超えて協力できたのはかえって良かった。また、保育補助を担っている職員も力を出してくれた。

10月の運動会の取り組みの始まりとともに、それまで年長クラスの担任だった職員を、単独の主任にし、産休に入るまでそのクラスを担当していた職員が年長クラスをもつことにした。年度途中の担任変

更なので保護者や子どもたちの反応が気になったが、丁寧な説明をし、主任になった職員がしばらくの間、フォローに入ることでスムーズに移行できた。

二人の大人が関わることで、こどもの見方が、一方的にならず、ベテラン保育士の主任の良い部分を担任が吸収することができたと思う。

その他のクラスでも、主任が折に触れ保育に入ることで助言が具体的にできた。主任自身は始め何をしていたかわからず…というところもあったが、相談しつつ確認してきた。園長にとっては相談できる立場の人ができ精神的には安心できるようになった。業務の中身についてもこれから他の2園と交流しながら検討していきたい。

乳児クラスと幼児クラスの交流は意識的に取り組んでいった。特に2歳児クラスから3歳児クラスに進級する際に園舎が変わるので、できるだけ負担の無いように交流や幼児棟で過ごす時間をつくるようにした。

杉の子、太陽の子と合同で、実践交流委員会を立ち上げ、年齢ごとの保育の中身について交流した。保育室などの環境整備や教材、行事に向けての取り組み、幼児クラスでは子ども集団の作り方、大人の価値観の伝え方といったこと等、悩みや疑問を出し合うことができた。

互いにいい刺激になったし、3園あることのメリットでもあるので続けていきたい。今後、さらにこどもの捉え方といった保育の基本的な部分の交流や学習ができればいいと思う。

【家庭との連携】

初めて、就学を迎える保護者が多く不安感もあったので、丁寧に情報提供をし、特に支援が必要な児童の就学にむけては小学校との連携を密にとっていった。

また、個人懇談では具体的にアドバイスをすることができ有効だった。保護者に向けて、「ろっぽ」で講師をされている先生から、入学までに大切にしておくことを話してもらい学習会を開いた。お母さんたちが、肩の力を抜いて1年生を迎える気持ちになれたようで良かった。

保護者向けのアンケートで毎年のように「行事等が多いと感じる」と出されるので、もっと合理的にできないか検討してきた。大きな改善には至ってないが、工夫をして少しでも負担が減るようにしてきた。これからも課題としていく。

【子育て支援】

* 地域保育 あそぼう会

毎週火曜日 実施

昨年度より参加者が減少し、10家庭を超えることはなく、しっとりと遊んでいる。あそぼう会の参加から一時保育の希望があったり、年に何度か年齢のクラスと交流して、保育園の子どもたちの姿を身近に見る機会をつくった。

新しい参加者は口コミや、お友だちに誘われて来ていた。後半、寒くなってから参加者が減ったので、子育てしんぶんをまく地域を変えて猪名寺方面の新しい住宅も配布してみた。

*** おでかけあそぼう会・子育てカフェ**

おでかけあそぼう会は、3回実施した。春休み期間だと小学生が沢山来てくれたので他の日程の見直しをしていく。園庭での親子泥んこ遊びは好評だった。あそぼう会の親子連れも多くの参加があった。

季節の製作を楽しむワークショップも楽しまれてはいるが、保育士の負担と保護者の忙しさとの兼ね合いが難しいと感じる。

【特別保育事業】

*** 一時預かり保育 のべ 105名の利用**

ほとんどは就労が理由で、待機児が多かった。また、他の保育園の一時保育との掛け持ちもあった。あとは定期的なリフレッシュや、趣味の為という要求があった。

*** 延長保育**

利用人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児	0	0	3	1	1	2	0	1	4	6	8	3
1・2歳児	76	63	61	56	65	61	61	64	61	61	62	62
3歳児以上	53	45	41	42	46	53	57	51	59	48	44	50
合計	129	108	105	99	112	116	118	116	124	115	114	115

【職員研修】

* 5園研修はゆりかご、ひまわり、杉の子、太陽の子と実施し様々な分野から講師に来て頂いている。毎回、非常勤職員も含めて参加している。

研修内容	凶暴罪ってどんなもの？	わらべうた	保育所保育指針改定について	沖縄で生まれ育つということ
参加人数	12	11	12	11

兵保連保育セミナー のべ24人参加

兵庫の保育を考える集会 14人参加

全国保育団体合同研究集会 4人参加

全国保門研 2人

法人園会研修

研修の内容は、報告書の閲覧と、その時々に応じて職員会議で報告し、共有している。

【会議】

*** 職員会議**

毎月の職員会議は全員出勤の土曜日はその日に行い、他は平日の13:45～15:00過ぎの時間に

開いている。個々のクラスの様子については意見交換ができているが、テーマをしぼっての討議はなかなかできない現状。時間的に足りないと感じるので、必要に応じて月に2回するのも必要かとも思う。

後半は主任と会議内容や問題の分析・提起の仕方を、検討できるようになった。

総括会議は、前期、後期行い、後半の総括は2日使って実施した。内容は年々積み重ねてきていると思うが、卒園と成長を祝う会が終わってから新年度の準備にかかるので、次年度について十分検討できないところもあり4月にもつれこんでしまう。

【実習生受け入れ】

8月28日～2週間 園田学園女子大学より 1名受け入れ (2歳児クラス)

11月6日～2週間 園田学園女子大学より 1名受け入れ (1歳児クラス)

【避難訓練】

月	内容	月	内容
4	火災・給食室より出火	10	地震 津波・園小へ避難
5	火災・通報訓練	11	火災・職員数が少ない時間帯を想定して
6	洪水・園田小学校へ避難	12	地震
7	地震・防災頭巾を被る練習	1	火災・給食室より出火 初期消火にあたる
8	地震・頭巾を被って避難	2	地震 津波・園小での防災訓練に参加
9	不審者・幼児棟へ避難	3	火災・隣マンションより出火

防災委員が中心となつての訓練が、根付いてきた。0歳児クラスはおんぶひもを使う練習を避難訓練以外でもするようになった。園内の防災会議を定期的に持ち、さらにきめ細かい実践にしていきたい。

2017年度 さんぽ支援センター 事業報告

さんぽ支援センターは、障害のある人と家族の支援をいろんな形で行ってきました。社会福祉法人傘下としての2年目の事業は、2017年4月に常勤職員が配置されたことにより、大きく前進したというのが特徴です。事業の拡大も目標を達成でき、軌道に乗せられています。質の向上と施設の管理運営を充実させていく課題についても少しずつ前進できています。

*実施4事業の報告

さんぽ支援センターが取り組む（訪問系支援）移動支援 居宅支援と（施設型支援）短期入所 日中一時支援がありますが、居宅支援で全介助の重度訪問介護利用者が増えたことと、移動支援・居宅支援で精神障害利用者が増えたことが、この一年でより幅広い支援になってきた内容の一つです。以下各事業の振り返りをします。

***移動支援は** 時間数 280 時間 利用者数 25 名を目指してきましたが、後半になって達成ができ、3月末で時間数 320 時間、利用者 27 名となりました。移動支援の報酬単価が昨年8月に引き下げられ、以前のような収支ではありませんが、単価引き下げによる減収を回復・超過するところまで来ています。ヘルパーも入れ替わりがある中で 12 名が従事しています。

***居宅支援は** 30 時間 利用者数 5 名を目指しましたが、家事援助を含め 80 時間の達成になりました。利用者は重度訪問介護も含めて 4 名登録です。身体介護や家事援助を通して利用者の生活の下支えを担う大切な支援であることが見えてきます。しかし、居宅支援に入れる支援者が不足しています。特に重度訪問介護・精神の居宅支援者が不足しております。ニーズとしては まだまだ膨らむ可能性が大きい事業ですので、ヘルパー確保の対策が必要となっています。

***日中一時支援は** 日数 10 日の目標に対して 10 日の達成です。利用者 11 名です。

弾力的な運用ができるので様々なニーズに対応できました。突発的な精神疾患発症利用者の急性期を家族支援として日中一時利用で乗り切ったことや、学生・児童の学校休みの対策などもできました。短期入所や児童デイにつなぐ時間調整もできますので、今後問い合わせもあることで、増えていくと思います。

ただ、報酬単価が過酷に低いのでスタッフ以外が入れないところがネックです。制度の有意義な側面を重視しつつ、単価引き上げを引き続き求めていきたいと思っています。

***短期入所は** 月 3 回から始めた事業ですが、いろいろ経過をたどって 現在は月 5 回の実施になっています。定員も 3 名から 4 名にしました。固定 3 回とニーズにこたえて随時実施という形は 利用者にはとても支えとなっています。そして、短期入所を利用することで、利用者の新たな一面がみえ、より支援内容に反映され、充実しています。特定の曜日の実施要求もありますので今後スタッフを増員して増やしていきたいと思っています。他事業所からの紹介・問い合わせも多く、実施事業所が尼崎市内で 18 ヶ所しかないという実態ですので、今後もニーズにこたえられるよう枠を広げていきたいと思っています。

2018.3.31 各事業の概要						
事業	利用者	従業者	事業	利用者	支援員	
移動支援	27	14	短期入所	11	8	
居宅支援 身体	4	5	日中一時	11	3	
家事援助	1	2				
重度訪問介護	1	1				

2017年の活動

毎月	コーディネート会議 さんぽ職員会議 避難訓練					
月	全体	行事など	その他			
4月	個別懇談 個別支援計画(前半)の説明 各種マニュアルの改正		きょうされん 署名 行動			
5月	個別懇談 予備 短期入所担当支援員会議 法人指導課監査 短期入所・日中一時定員増に4名なる	ゴールデンウィークむけ あそびに行こうデー				
6月	ヘルパー会議 ケース検討会議 さんぽフェスタ実行委員会 三木先生学習会	クッキング講習				
7月			多目的ホール完成 お披露目会参加			
8月	ヘルパー会議・研修	プールあそびの会				
9月						
10月	個別懇談 個別支援計画(後半)の説明 移動支援単価切り下げ	さんぽフェスタ	きょうされん自販機 設置(IPPO前)			
11月	個別懇談 予備 短期入所担当支援員会議		短期入所尼崎ネット ワーク発足			
12月	ヘルパー研修 ケース検討会議	クリスマス会クッキング講習	IPPO アイリッシュ コンサート参加			
1月	精神障害者支援研修 中央公民館	お正月あそびの会	きょうされん署名取 り組み開始			
2月			短期入所ネットワー ク会議			
3月	ヘルパー会議 ケース検討会議 学習会 中村先生	梅見の会				